カントボーイにされた勇者が魔物の苗床になる話

by Pink Shark

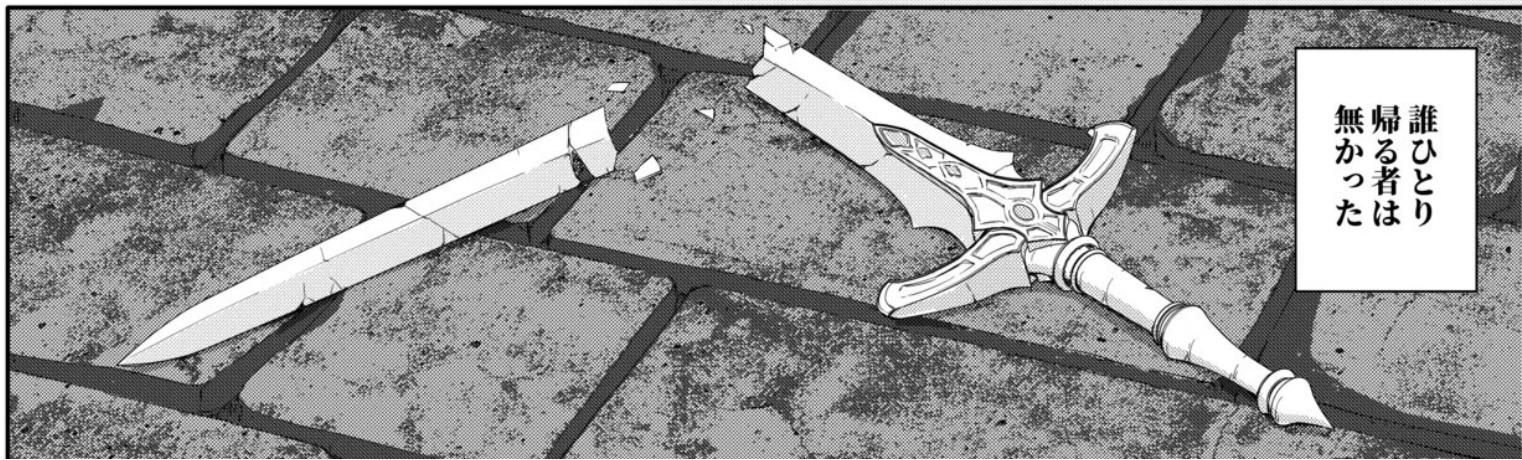
二百年前
のこと

征服王アズゴルは
邪神の血を飲み
魔王となった

以来、彼の城から
は雲霞の如く
魔物が溢れ

民を喰らい
国々を飲み
込んでいった

幾人もの勇者が
魔王に挑んだが



誰ひとり
帰る者は
無かった

そして
今…
歴代最強と
謳われた勇者
がここに
ハァ
ハァ
ハァ
ズバッ!!
斬っても
斬っても
ハァ…
湧いて
くる…
いったい
どれだけの
魔物が
この城に…

体力も魔力も…
もはや限界
ゴオン…
だが…ここで
倒れては…
ゴオン!
先に逝った
仲間たちに…
ゴオオン
会わせる
顔が無い!
ゴオン…

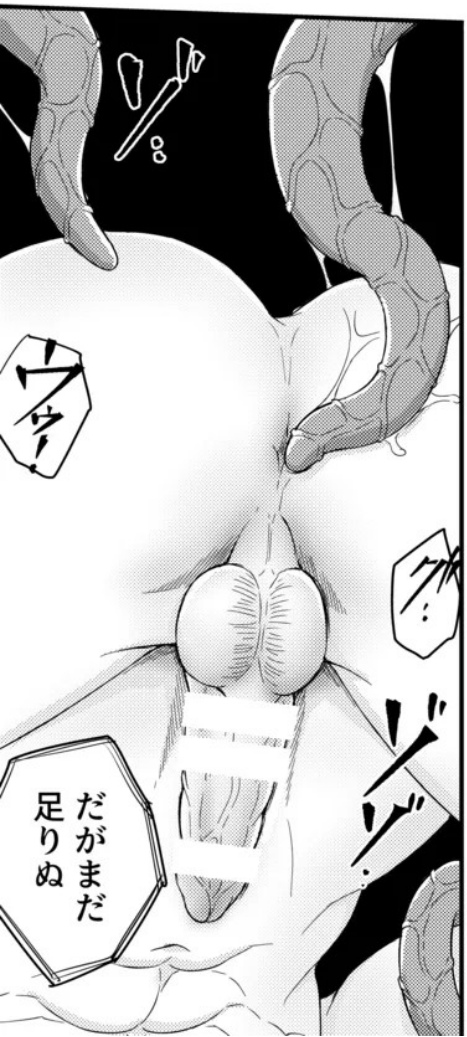
たとえ全身が
砕けようとも
魔王アズゴルに
我が一太刀を
来いっ!!
ガブ
オオオ
オオオ
オオ
オ

千の近衛を相手に…
ここまで俺に肉薄するとは
さすが生ける伝説とまで言われた男
勇者レオン・シュトラウス

ゴオオオオオ
このアズゴルが唯一…
宿敵と認めた男よ
剣技…魔法…胆力…
どれをとってもこの二百年で最高であった
くだらん戯言を言う為に生捕りにしたのか？
さっさと殺すがいい
殺す？
殺すなどとんでもないこと

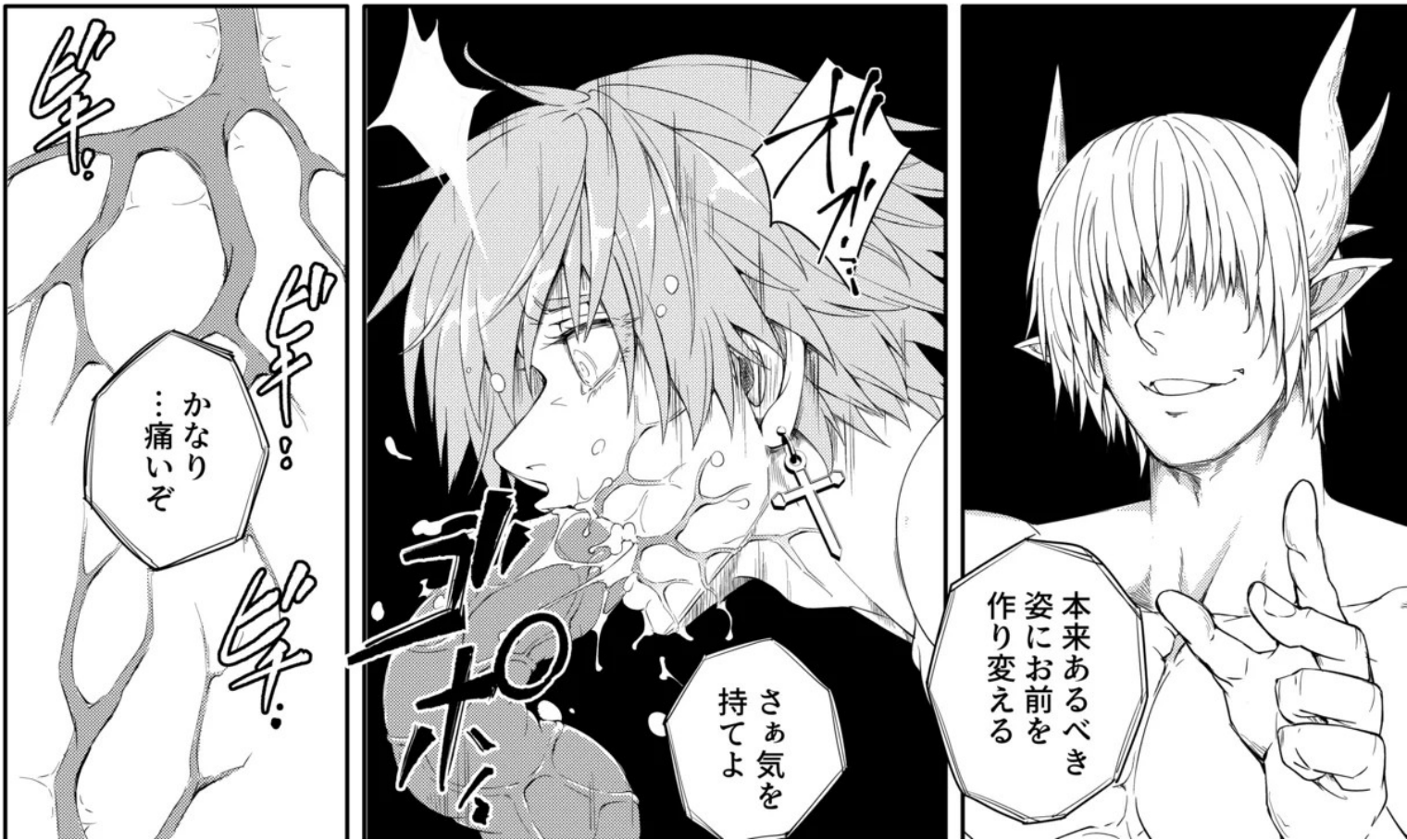
お前は大事な…
苗床だ
これから長い付き合いになる
グッ!
ヌゥ…
ウ…
グ!
ビキ!
ミチ。
決着はついたが
クゥ…
ビ!
俺とお前は

ズズ
ズズズ。
鍛え上げられた
見事な肉体よ


ソ。。
ウゥ！
ク！
ゾゾ。
だがまだ足りぬ

このまましゃぶりつき
犯してやりたい
グッ
ズレッ

なっ
何を…
ズ
ウッ
クッ
ビク
ビク


本来あるべき姿にお前を作り変える
さぁ気を持てよ
オボ…
ゴホ
かなり…痛いぞ
ビチ
ビチ

ゴッ
ゴッ
ゴッ
ゴッ
ゴキュ
ゴキュ
ゴキュ
ビク
ビク
ビク

完成だ
ヌチャ
ドロォ…

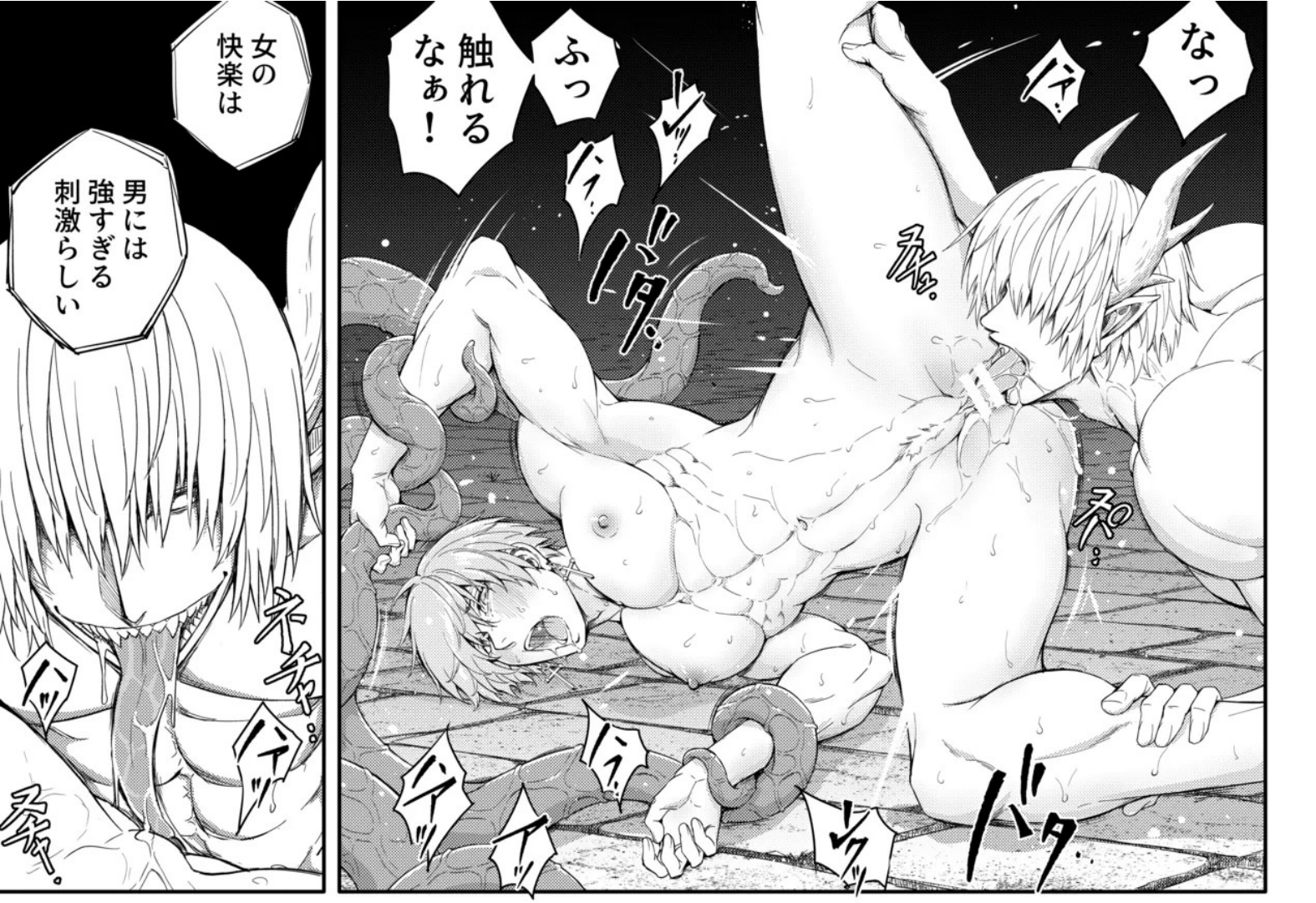
お前はより完璧で…
この俺に相応しい姿に生まれ変わる
より美しい
ワナ…

なんと素晴らしい
あぁ…
ハッ
ハッ
ハッ
ハッ
ヒク…
ヒク…
ヒク…

俺はお前を
ずっと
見ていた
故郷を失い
俺を倒す
旅に出た
儚き少年
の頃から
ハァ
ハァ
ハァ
必ず来ると
信じていた
ハッ
ようやく
手に入る
伝説の勇者の
正当なる血統
我が世継ぎ
を宿すに
相応しき身体

さぁ
楽しもう
男の機能
も残して
やったぞ
あ
ビク
ビク
あ…
お前は男と女
両方の快楽を
味わえるのだ
ガッ
ウッ

では味を
見てみようか
ガッ
グッ
まずは
女の方
からだ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ


なっ
ふっ
触れるなぁ！
女の快楽は
男には強すぎる刺激らしい

歴戦の勇者も皆よい声でないていた
さぁ…お前の艶やかな声を聞かせてくれ

舌が私の中を這いずる…
体の内側をまさぐられる感覚
これが…女の…
女の…感覚
やめ…
やめ…ろぉ
ハァァー

お前…仲間だった賢者とまぐわっただろう？
貴様…よくも
フー
フー
フー
ヌチュ…
ヌチュ…
覗かせてもらったが実に愛らしかった
どうだ…同じ快感は味わえたか？
よくもこのような恥ずかめを…
フフ…
グッ
グッ
グッ
かような恨み言も
ズプッ
ズッロォォ
やがて歓喜の喘ぎに変わるだろう
ズプッ

見ものだな
メス穴二つ貫かれたお前が…
いつまで強がれるのか

あぁそうだ
みんな犯して孕ませ
魔物を産む苗床にしてやった

歴代…の勇者にも
同じ…事…を

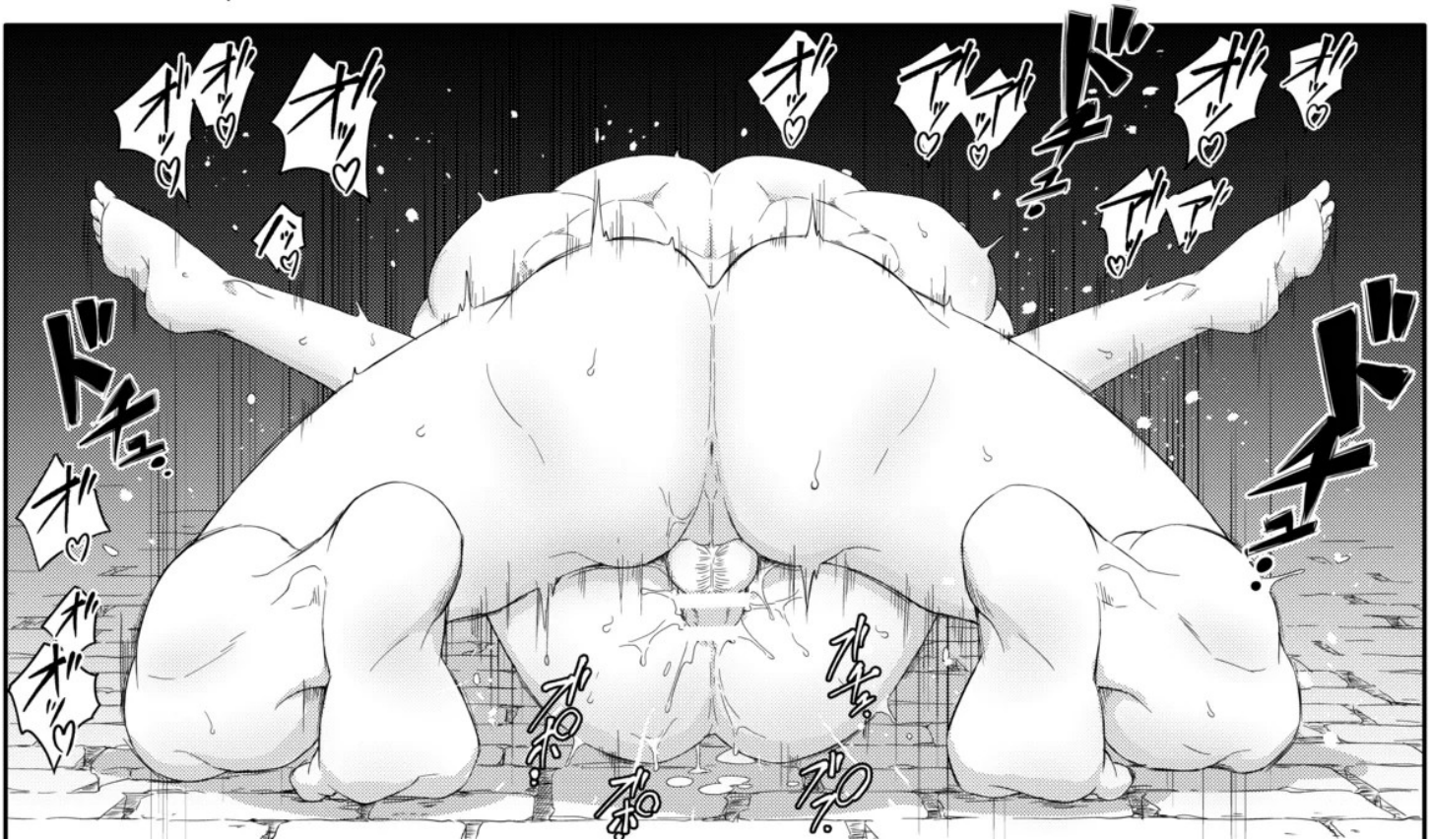
今までお前が
殺してきた魔物は全て
彼らが産んだもの
フーッ
フーッ
フーッ
このような悪行…永劫には続かんぞ
呪われし憐れな王よ
人の心は欠片も残っていないのだな
ハァッ
クッ
ハァ…
ズチュ
ズチュ…
チュプ
私を超えるものが…
真の…勇者が必ず…現れ…る
貴様を打ち倒す者が…
ハァッ
ンッ
ア！
ウン…
ヌチュ…

お前を超える者…だと？
オッ
ゴッ
ゴッ
レオン・シュトラウスを超える者だと？
あり得ぬ
俺は人間の限界をよく知っている
ゴチュ
ゴボ
アッ
アッ
アッ
ゴチュ
ハァ
アッ
お前こそ最高の勇者
私の愛しい宿敵
ゴチュ
アッ
ハゲッ
イッ
ハテッ
カ
ナッ

そのお前ですらこの様だ
有象無象に何が出来よう
勇者っ…だけではっない！
いずれ諸国の英傑が…立ち上がり
必ずやっ
魔王軍をっ打ち倒す!!
人の底力！
舐めるなよ!!
化け物!!

ハハッ
いいぞ！
もっと
吠えろ!!
これぞ
征服の
醍醐味!!

組み伏せ
屈服させる悦び!!



さぁ
孕むがいい
我が宿敵よ

今…
注いでやる
濃いのを…
ダ…メ
たっぷりとな！
ダメ…だ
やめ
やめ…ろ

この真っ新で
愛しき子宮に!!
…いや
嫌だ
…やめ
やめ…て

ハァ
ヒッ
アッ
アッ
アッ
アッ
ドビュ
ビュ
ビュ

ああぁ出る！
出るぅ！
止まらん！
ああぁいいぞ！
今宵は全て出し切る！
お前を…
俺で満たす
さぁ動け
思うまま
出来るだろう？

何だ…これ…は
腰が…勝手に…動いて
いいぞ
その調子だ
体にゆだねろ

…止まらない
お前の体が…
もっと寄こせと言っている
私の…私の中の…

私の二つのメス穴が…激しくうねって
グリュン
グリュン
奴の肉棒からさらに精液を絞り出そうとしている
ダ…メだ
止められない
…堕ち…る

…先に逝った仲間たちにどんな顔で会えば…
やめ…ろ
…イヤ
嫌だ
孕…む
やめ…てぇ
孕む…のは
ヤダァ
たの…む
頼む…から

お願いだと？
尻を突き出し
我が双頭を咥えこんで離さない奴の言うことか？
淫乱め
ちが…う
違うぅ

肉体はもう堕ちているが…
勇者としての心がまだ抗っているな
いいぞ…もっと抗え

当然よな
俺はお前の故郷の…仲間の…
そして人類の仇

さぁ…
もっと聞かせてくれ
生涯を掛けて倒そうとした男に…
犯され続ける気持ちを
…弄ばれている
褒美に
さらに激しく突いてやるから…
悔しい…悔しい…なのに

どうして痩れるほど…
興奮するんだ？
チク…ショウ
何だ？
それだけか？
さっきの威勢はどうした？

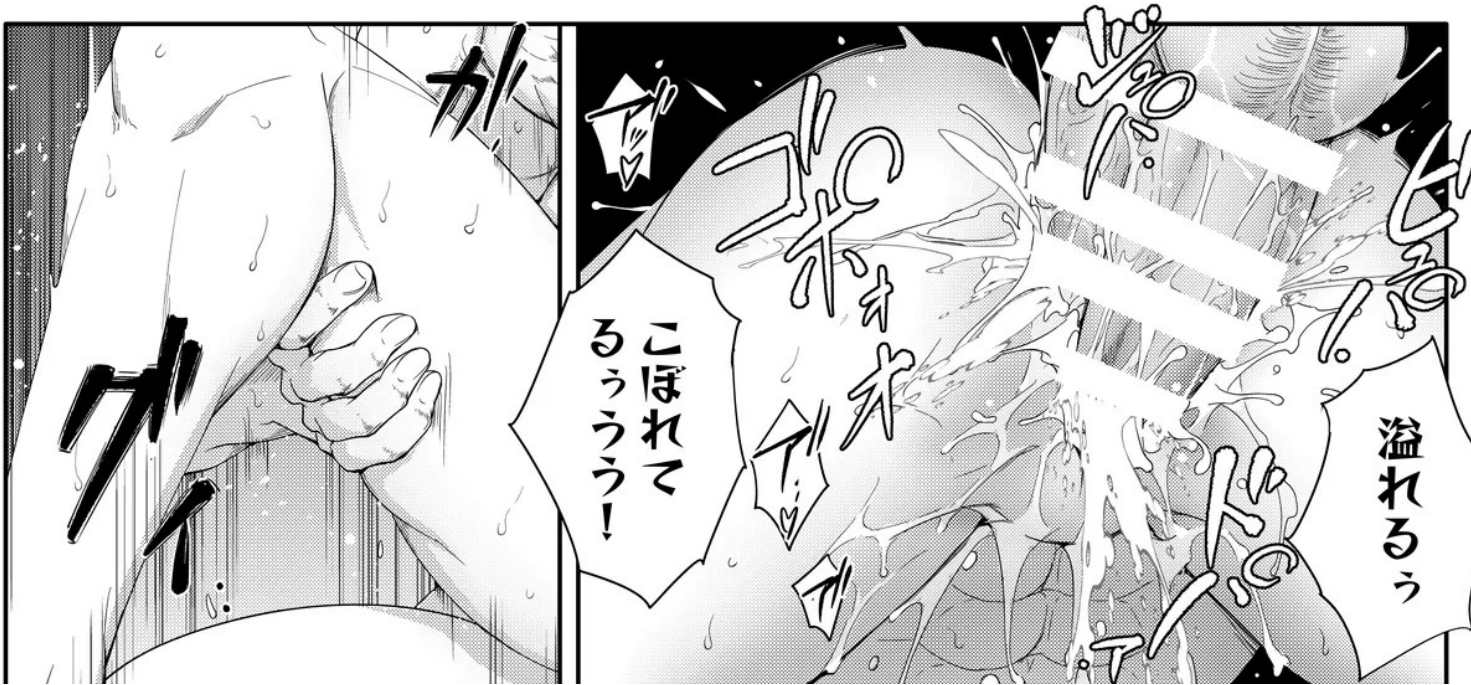
まぁ良い
それ褒美だ
ガン突きしてやる
ヒッ
チュンッ
ハァッ
バチュッ
ドチュッ
オッ
アッ
ゴッ
ドチュッ
ハッ
グポッ
グポッ
オッ

ガクン
…終わらない
それどころか
…より激しく
ベチャ
ダメなとこ
全部…
ムチャクチャに
突いてくる
バチュッ
バチュッ
バチュッ
バチュッ
も…
もう
ム…リ
腰…が
砕け…る
なるほど
…ここか

ここが好きなのだな？
こわ…れる
…もう
やめ…で
お願いし…まず
もう…勘弁してくだ…さい
おかし…ぐ…なる
おかじ…ぐ

あぁ…またイキそうだ
さぁ…出すぞ
ラ…メェ
こわれる…
イクぞお
メス穴…ニラとも壊れちゃう
ああぁ…止まらぬ
全部だ
一滴残らず流し込むぞ

止めっろぉ
もう…無理いい
もうっ…入らないい


溢れるぅ
こぼれてるぅぅう！

あぁ…
お前は最高
のメスだ
これほどの
種付けは
二百年ぶり
最初の軍勢
を作った時
以来よ
オッ♡
オッ♡
オッ♡
ズッ
ズチャ
ズチャ
ズチャ
ビュッ
ゴポッ
ボッ

愚かな人間を
駆逐し…
我が血族で
世界を統べる

お前が
産む子は
それを成す
真の魔王と
なるだろう！

さぁ…
お前の弱い所は
全て把握した
そろそろ
壊すとしよう
モチュ
モチュ
アッ♡
イッ♡
イッてる
もう…
何度も
何度
…も
グチュ
グチュ
ビク
これ…
以上
気持ち
…よく
…なっ
たら…
そうか
…
…死ぬ
死ん
じゃう
ならば
死ぬがいい
勇者よ
永遠に…
オッ♡
オン♡
ドプ
ゴプ

絶頂するがいい
男として
女として
きて…るぅ
くぅ…る
何か…
奥…から

さぁイケ！
噴き出せ！
決壊…するぅ

イグぅう！
オッオッ♡
オッ♡
カクン
ビク
ビクン
ヒィ♡
イグぅう！
壊れりゅうぅう
ビュルルッ
ビュッ
ゴプ
アッアッ♡
オッアッ♡
アッ♡
オッ♡
オッ♡
オッ♡
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュ
オッ♡
ビュ
ビュ
ビュ
ビュ
ビュ
ビュ
ビュ
ビュ

マ…オオ…
魔…王
オ♡
オ♡
オ♡
アズ…ゴル
ン♡
ン♡
ン♡
ン♡
アズゴル…様ァ
ヒク…
ヒク…
ヒク…
オホ。
ドプ。
ドプ。
オヨ

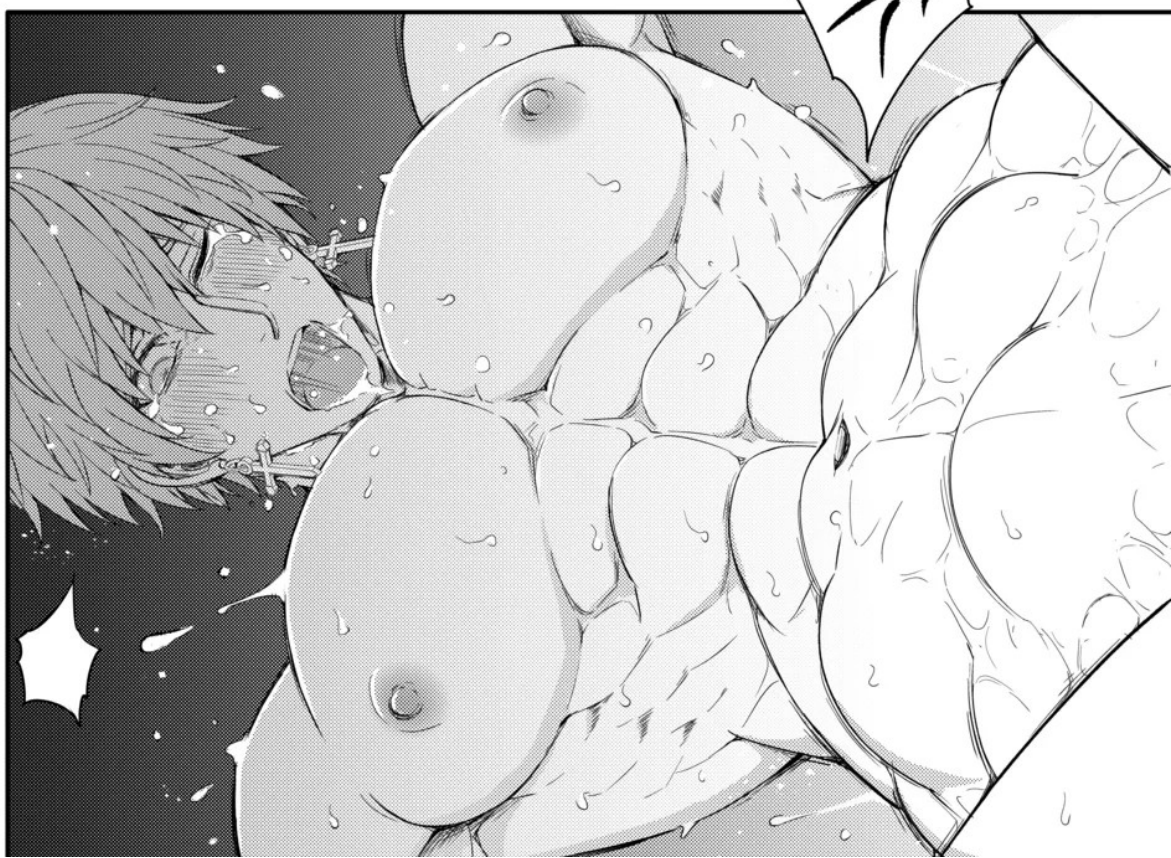
今…動いた
…何だ？
ドクン…
ドクン…
ドクン…

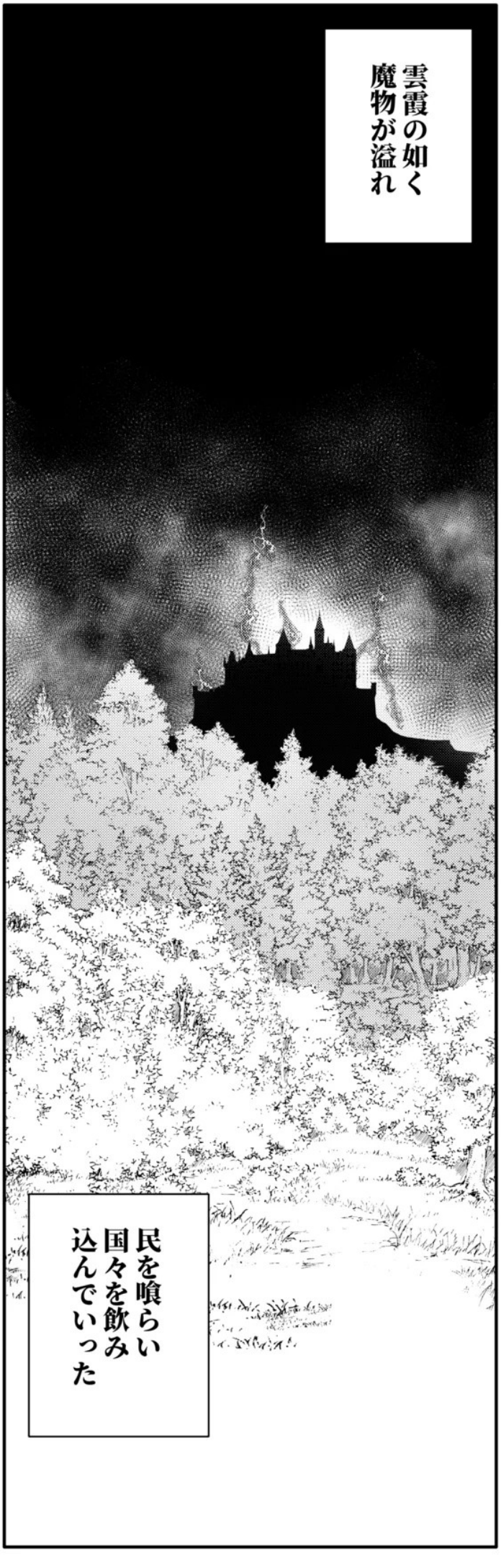
ドックン…

あ…

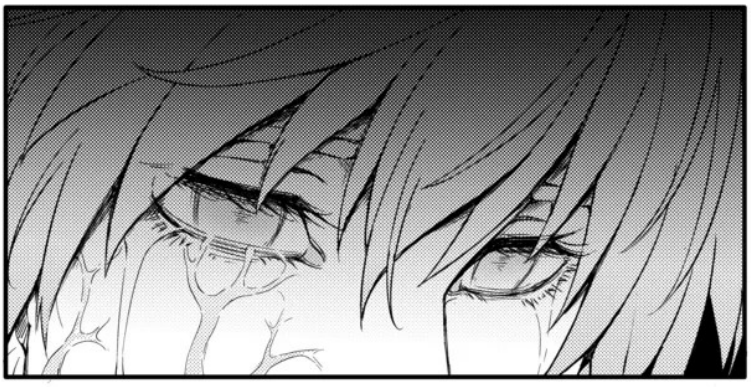
あっ…フゥ
熱い
あつ…い
あぁ…
始まったか…

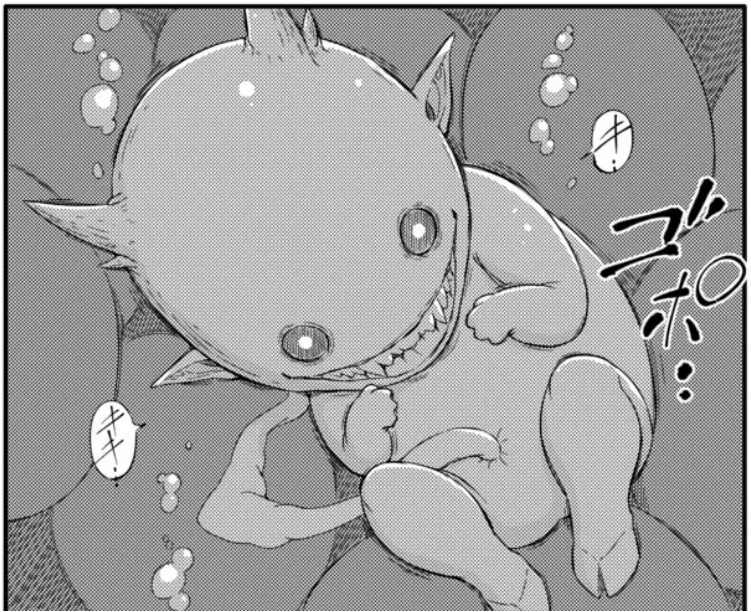
魔王の
城からは―




雲霞の如く
魔物が溢れ
民を喰らい
国々を飲み
込んでいった

オオオオオ。
はやく
はやく
出てまいれ




ゴボ…
キ!
キキ!

幾人もの
勇者が
ドク…
キキ…
ドクン…
キキ…
ドク…
魔王を
滅せんと
挑んだが

誰ひとり
帰る者は
なかった
私と…
魔王様
の…
愛しき
子ら…

レオンが産みし子らによって

二十年に及ぶ聖王国との戦も…

詰めに入った

魔王軍の進撃はより苛烈さを増す

次の会戦で勝敗は決するだろう

前衛を任す

精鋭を率いて先鋒を切れ

やがてその中にから…

殲滅せよ

烈火のごとく

お前たち二人なら容易い

二人の次期魔王候補が現れる

そのお話は
次の機会に…

END